

公益財団法人国際通貨研究所

平成 26 年度事業報告書

当研究所は、専門性を活かした社会への幅広い貢献と、官公庁や民間機関などからの委託調査を通じた日本経済への貢献、および世界のシンクタンクやエコノミストらとの知の交流を追求すべく、平成 26 年度（平成 26 年 4 月 1 日より平成 27 年 3 月 31 日まで）の事業として、以下の諸活動を実施した。

1、調査研究活動

国際通貨、国際金融に関する諸問題について以下のテーマを中心に、自主調査、委嘱調査の方法により調査研究を行い、様々なメディアを通じてその成果を対外的に公表した。

(1) 国際金融通貨市場のリスク分析と安定性の追求

国際金融・通貨、中国の金融・為替・資本市場、ASEAN の債券市場育成、銀行システムの健全性、地域銀行の連携、ユーロ問題などをニーズの高い個別テーマとして選定し、レポート作成や情報交流を行った。

(2) 先進国途上国双方のマクロ経済の回復基盤と発展メカニズムの調査

先進国の景気回復基盤、途上国の経済発展メカニズム、途上国の政治社会情勢分析などをニーズの高い個別テーマとして選定し、レポート作成や情報交流を行った。

(3) 開発経済、カントリーリスクの分析

ロシア、ケニア、アンゴラ、インド、エクアドル、モンゴル、香港などのカントリーリスクの状況を取りまとめたほか、ベトナム、インドなどについては銀行セクターに関する調査も実施した。

2、情報交換・国際交流活動

調査研究に関連するテーマについて国内外の有識者との間の意見交換や政策提言を目的としてシンポジウムを開催した。また、内外関係当局及び研究機関との間で情報交換、交流を行った。

(1) シンポジウム・セミナーの開催

3 月に経団連会館において恒例の国際金融シンポジウムを開催した。「グローバル経済～米国金融政策正常化への備えは十分か?～」とのタイトルの下、パネリストには、ジェイコブ・フレンケル JP モルガンチェースインターナショナル会長、アデア・ターナー前英国金融監督サービス機構長官、クラウス・レグリング欧州安定メカニズム総裁、山崎達雄財務省財務官、クリフォード・タン三菱東京 UFJ 銀行グローバルマーケットリサーチ東アジア統括を招聘し、経済の構造問題や中長期的課題について、400 名以上の聴衆を前に活発な議論が展開された。

また 1 月には在京の外国大使館その他機関の方を招待し、元財務省財務官の古澤満宏 IMF 副専務理事（セミナー開催時の肩書は、内閣官房参与、財務省顧問および三菱東京 UFJ 銀行顧問）を講師とするセミナーを開催した。

(2) 外部との交流

▶ 海外のエコノミストなどとの交流

海外のエコノミストらの来訪を受けた際に、それぞれの専門分野において意見交換を行い、交流を深めた。

- ✓ インド国際経済関係研究所のラジャト・カトゥーリア博士の来日の機会を利用して、本邦の政府関係機関、大学、シンクタンクなどから有識者を招待し、モディ政権誕生後のインド経済について、カトゥーリア博士を講師とする比較的小規模な講演会を開催。
- ✓ 中国の政府系シンクタンクである中国国務院発展研究センター・マクロ経済研究部の魏加寧副部長らが、中国の環境問題や構造改革についての意見交換をするために来訪。
- ✓ 中国吉林大学経済学院の李暁教授らが、資本自由化や人民元国際化などに関する意見交換のため来訪。
- ✓ 中国浙江省寧波市国際投資促進局の賀波局長らが、両国の抱える課題などについての意見交換のため来訪。

▶ 「アジア次世代指導者奨学金プログラム」の創設サポート

当研究所が日本側事務局として、日中両国の大学・大学院に相互の留学生を派遣するプログラムである「アジア次世代指導者奨学金プログラム」の創設をサポートした。

▶ 海外大学・大学院からのインターン受け入れ

米スタンフォード大学と米ジョンス・ホプキンス大学大学院それぞれから、計 2 名の学生をインターンとして受け入れた。

(3) ソーシャル・ネットワーク・サービス (SNS)

ソーシャル・ネットワーク・サービス (SNS) 「IIMA en フォーラム」を活用し、国際金融や国際通貨にかかわる意見交換や情報交換を活発に行った。

3、広報・普及啓発活動

調査研究活動の成果の社会への還元、国際経済・国際金融に関する知識の普及啓発を目的として、ホームページを通じた対外広報、大学や外部機関での講義・講演、専門誌への寄稿、などを実施した。

(1) ホームページやメールマガジンによる情報発信

ホームページには年間で Newsletter39 本（日本語 33 本、英語 6 本）、国際金融トピックス 16 本、調査研究論文 4 本を掲載し、調査研究の成果を積極的に対外発信した。

また、当研究所が開発し、ホームページ上にて公開している IIMA Global Market Volatility Index について、様々な機会を利用して多方面で紹介した。シアトルで開催された APEC ビジネス諮問委員会 (ABAC) 主催のアジア太平洋金融フォーラム (APFF) や国際リスク学会にて IIMA Global Market Volatility Index を発表したほか、トムソン・ロイターへの IIMA Global Market Volatility Index の計数提供を開始した。

その結果、その時々々の社会的関心の高いテーマに関するレポートや IIMA Global Market

Volatility Index に多くのアクセスを得、毎月のホームページへの訪問件数は 15～19 万件程度で推移した。また、メールマガジンの登録数は 2,000 名を上回った。

(2) 教育機関などでの講義・講演

新潟大学、南山大学、上智大学、京都大学、清泉女子大学、埼玉大学、拓殖大学、東洋学園大学、専修大学、東京外語大学、文京学院大学において講義を実施した。

(3) 寄稿・インタビューなど

渋沢栄一記念財団の機関誌への寄稿、「国際金融」、「月刊ロシア通信」への寄稿や新聞・雑誌等メディアの取材の受け入れなどを行った。

以 上